

資料1 ボンヘッファーの生涯

1906年2月4日 現在のポーランド領ヴロツワフで8人兄弟の6番目の子として誕生

その後、家庭ではP.ゲルハルトのコラール、詩篇に親しみ霊性・信仰が培われた。
ルター派の牧師。20世紀を代表するキリスト教神学者の一人となる。

1914年6月28日 サラエボ事件を機に、第一次世界大戦に

1919年1月18日 パリ講和会議が始まり、ドイツは植民地と領土の一部の割譲、莫大な賠償金の支払いを負うことに。

1930年 世界恐慌によってドイツ経済は潰滅的な打撃を被り政界も大混乱 この頃からナチ党が台頭。

1933年1月30日 ヒトラーは首相に任命され、政権を奪取。

1933年9月21日 宗教改革の精神と信仰告白死守を目的とする運動が始まり、ここから告白教会が誕生

1934年5月 ボンヘッファーも署名した「バルメン宣言」が告白教会で採択さる。

- ・十戒の第一戒に立ち、民族と国家の神格化の否定。
- ・イエス・キリストを主とし、王なるキリストを至高の支配者とする。
- ・ヨハネ黙示録のキリスト教会を残酷な迫害で苦しめたローマ皇帝にも匹敵するヒトラーを拒絶。
- ・ヒトラーの国策による「ドイツ福音主義教会」すなわちドイツ帝国教会を否定。

★当時のボンヘッファーの立ち位置

- ・国家権力に対する反乱・革命の企てを承認せず、むしろそれは神の国の到来を遅延させるものと見た。
- ・徹底的無抵抗、「悪い者に手向かってはいけません。あなたの右の頬を打つ者には左の頬も向けなさい」（マタイ5:39）を文字通り標榜した。

1935年頃

当初教会に対して宥和的な政策をとっていたナチが、ナチズムに迎合する（ドイツ・キリスト者）を介して教会への干渉を始めた。すなわち従来の教会を一元化して帝国教会を作り、帝国監督をその上に据え、さらにユダヤ人排除政策である〈アーリア条項〉を教会関係立法に導入しようと画策。

1939年9月1日 ドイツ軍がポーランドに侵攻、第二次世界大戦が勃発

★ 1939年9月頃 ボンヘッファーは、告白教会の《教会的抵抗》《受動的抵抗》等の平和主義路線を捨て、ヒトラー暗殺計画に加わる。

1943年4月 ゲシュタポに（別件で）逮捕されベルリンのテーデル刑務所に拘留さる

その後も、極めて限定された条件の中で著述を継続。

1944年6月 連合軍がフランス北部のノルマンディーに上陸

1944年7月20日 ヒトラー暗殺計画は失敗

★ 1944年12月19日 地下刑務所から、婚約者マリア・フォン・ウェデマイヤーに書簡『あなたと両親と兄弟のためのクリスマスの挨拶』を送る。これが『善き力にわれ囲まれ』として世に出ることに。

1945年4月8日 ヒトラー暗殺計画への関与が発覚し、強制収容所へ移送後死刑判決を受く

1945年4月9日 ボンヘッファー処刑さる

1945年4月30日 ヒトラー、総統官邸地下壕で自殺。

1945年5月8日 ドイツ軍、無条件降伏

【参考資料】

<https://paperzz.com/doc/5755491/殉教者ディートリヒ・ボンヘッファー-における讃美歌と詩篇>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/ドイツの歴史#ナチス・ドイツ>

資料2 ボンヘッファー "Von guten Mächten" 原語歌詞と対訳

原語歌詞と対訳の出典 https://note.com/efi/n/ncc4898509da2	歌われる節		
	JCCC 賛美動画	新生讃美歌 73番	讃美歌21 469番
	曲：Siegfried Fietz		曲＊？
1. Von guten Mächten treu und still umgeben, よい力（複数）に、忠実に静かに囲まれ、 Behütet und getröstet wunderbar, 見守られ、すばらしく慰められて、 So will ich diese Tage mit euch leben 私はこの日々を君たちとともに生き、 Und mit euch gehen in ein neues Jahr. 君たちとともに新しい年に進んでゆこう。	1 節 & 5 節 (英語)	1 節	1 節
2. Noch will das alte unsre Herzen quälen, 古い年は私たちの心をなおも苛もうとし、 Noch drückt uns böser Tage schwere Last. 邪悪な日々の重荷が私たちをなおも圧迫する。 Ach, Herr, gib unsern aufgeschreckten Seelen ああ主よ、私たちの脅かされた魂にお与えください、 Das Heil, für das du uns geschaffen hast. 救い（この救いのためにあなたは私たちを 創造なさったのです）を。	—	2 節	2 節
3. Und reichst du uns den schweren Kelch, den bittern それであなたが私たちに困難な苦い杯を差し出されるのならば、 Des Leids, gefüllt bis an den höchsten Rand, ぎりぎりまで満たされた苦しみの （苦い杯を差し出されるのならば）, So nehmen wir ihn dankbar ohne Zittern 私たちはそれを感謝のうちに、震えもせずに受け取ります、 Aus deiner guten und geliebten Hand. あなたの善い、慕わしい御手から。	3 節	4 節	3 節

4. Doch willst du uns noch einmal Freude schenken それでもあなたが私たちにもう一度喜びを与えたいと 思ってくださいるならば, An dieser Welt und ihrer Sonne Glanz, この世界とその太陽の輝き（のうちに生きる喜びを もう一度与えたいと思ってくださいるならば）, Dann wolln wir des Vergangenen gedenken そうであれば、私たちは過ぎ去ったことを（も） 記念しましょう, Und dann gehört dir unser Leben ganz. そうすれば私たちの生は完全にあなたに属するものとなります。	—	—	—
5. Lass warm und hell die Kerzen heute flammen, 今日、あたたかく明るくろうそくを燃やしてください, Die du in unsre Dunkelheit gebracht. あなたが私たちの暗闇にもたらしたろうそくを。 Fuhr, wenn es sein kann, wieder uns zusammen. できることなら、私たちを再び一緒にしてください。 Wir wissen es, dein Licht scheint in der Nacht. 私たちは知っています、あなたの光が夜に輝くことを。	4 節	5 節	4 節
6. Wenn sich die Stille nun tief um uns breitet, 私たちの周りに深い静寂が広がったら, So lass uns hören jenen vollen Klang 私たちに聞かせてください、あのいっぱいの響きを, Der Welt, die unsichtbar sich um uns weitet, 私たちの周りが見えない形で広がっている世界の （あのいっぱいの響きを）, All deiner Kinder hohen Lobgesang. すべてのあなたの子らの高らかな讃歌を。	—	—	—
7. Von guten Mächten wunderbar geborgen, よい力（複数）にすばらしく守られて, Erwarten wir getrost, was kommen mag. 心しずかに待ち望もう、起こるかもしれないことを 【「何が起ころうとも」か?】。 Gott ist bei uns am Abend und am Morgen 神は夕べに朝に私たちのもとにいらっしゃる, Und ganz gewiss an jedem neuen Tag. そして全く確かにすべての新しい日に。	2 節 (Chorus) 6 節 (英語)	3 節 & 6 節	5 節

資料3 引用聖句一覧

【1】 マタイ 26:51-53

26:51 すると、イエスと一緒にいた者たちの一人が、見よ、手を伸ばして剣を抜き、大祭司のしもべに切りかかり、その耳を切り落とした。

26:52 そのとき、イエスは彼に言われた。「剣をもとに収めなさい。剣を取る者はみな剣で滅びます。」

26:53 それとも、わたしが父にお願いして、十二軍団よりも多くの御使いを、今すぐわたしの配下に置いていただくことが、できないと思うのですか。

【2】 ダビデ詩篇 3、18、52、54、57、59 等

【3】 ルカ 22:42-44

22:42 「父よ、みこころなら、この杯をわたしから取り去ってください。しかし、わたしの願いではなく、みこころになりますように。」

22:43 「すると、御使いが天から現れて、イエスを力づけた。」

22:44 イエスは苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた。]

【4】 使徒 12:4-11

12:4 ヘロデはペテロを捕らえて牢に入れ、四人一組の兵士四組に引き渡して監視させた。過越の祭りの後に、彼を民衆の前に引き出すつもりでいたのである。

12:5 こうしてペテロは牢に閉じ込められていたが、教会は彼のために、熱心な祈りを神にささげていた。

12:6 ヘロデが彼を引き出そうとしていた日の前夜、ペテロは二本の鎖につながれて、二人の兵士の間で眠っていた。戸口では番兵たちが牢を監視していた。

12:7 すると見よ。主の使いがそばに立ち、牢の中を光が照らした。御使いはペテロの脇腹を突いて彼を起こし、「急いで立ち上がりなさい」と言った。すると、鎖が彼の手から外れ落ちた。

12:8 御使いは彼に言った。「帯を締めて、履き物をはきなさい。」ペテロがそのとおりにすると、御使いはまた言った。「上着を着て、私について来なさい。」

12:9 そこでペテロは外に出て、御使いについて行った。彼には御使いがしていることが現実とは思えず、幻を見ているのだと思っていた。

12:10 彼らが、第一、第二の衛所を通り、町に通じる鉄の門まで来ると、門がひとりでに開いた。彼らは外に出て、一つの通りを進んで行った。すると、すぐに御使いは彼から離れた。

12:11 そのとき、ペテロは我に返って言った。「今、本当のことが分かった。主が御使いを遣わして、ヘロデの手から、またユダヤの民のすべてのもくろみから、私を救い出してくださったのだ。」

【5】 申命記 3:23-28

3:23 私はそのとき、【主】に懇願して言った。

3:24 「【神】、主よ。あなたは、あなたの偉大さとあなたの力強い御手を、このしもべに示し始められました。あなたのわざ、あなたの力あるわざのようなことができる神が、天あるいは地にいるのでしょうか。

3:25 どうか私が渡って行って、ヨルダン川の向こう側にある良い地、あの良い山地、またレバノンを見られるようにしてください。」

3:26 しかし【主】はあなたがたのゆえに私に激しく怒り、私の願いを聞き入れてくださらなかった。【主】は私に言われた。「もう十分だ。このことについて二度とわたしに語ってはならない。

3:27 ピスガの頂に登り、目を上げて西、北、南、東を見よ。あなたのその目でよく見よ。あなたがこのヨルダン川を渡ることはないからだ。

3:28 ヨシュアに命じ、彼を力づけ、彼を励ませ。彼がこの民の先頭に立って渡って行き、あなたが見るあの地を彼らに受け継がせるからだ。」

【6】 民数記 20:7-12

20:7 【主】はモーセに告げられた。

20:8 「杖を取れ。あなたとあなたの兄弟アロンは、会衆を集めよ。あなたがたが彼らの目の前で岩に命じれば、岩は水を出す。彼らのために岩から水を出して、会衆とその家畜に飲ませよ。」

20:9 そこでモーセは、主が彼に命じられたとおりに、【主】の前から杖を取った。

20:10 モーセとアロンは岩の前に集会を召集し、彼らに言った。「逆らう者たちよ。さあ、聞け。この岩から、われわれがあなたがたのために水を出さなければならないのか。」

20:11 モーセは手を上げ、彼の杖で岩を二度打った。すると、豊かな水が湧き出たので、会衆もその家畜も飲んだ。

20:12 しかし、【主】はモーセとアロンに言われた。「あなたがたはわたしを信頼せず、イスラエルの子らの見ている前でわたしが聖であることを現さなかった。それゆえ、あなたがたはこの集会を、わたしが彼らに与えた地に導き入れることはできない。」

【7】 詩篇 119編

【8】 黙示録 5:9-14

【9】 マルコ 15:39

15:39 イエスの正面に立っていた百人隊長は、イエスがこのように息を引き取られたのを見て言った。「この方は本当に神の子であった。」